

海岸マツ林の塩分捕捉効果

福島県林業研究センター 森林環境部
平成17～18年度林業研究センター業務報告

1 部門名

林業－森林土木－治山・林道
分類コード 18-13-30000000

2 担当者

斎藤 寛・小澤 創

3 要旨

本県の海岸マツ林の多くは、潮害防備保安林に指定されており、防災機能等を発揮すべく管理がなされている。防災林として造成された海岸マツ林の防災効果の指標としての塩分捕捉量を把握し、海岸防災林事業への効率的な事業執行の資料とする。

(1)いわき市新舞子浜のいわき市下大越字北横手地区では、海岸マツ林の林帯幅200m、樹高8m、成立本数3,000本/haの箇所の後背地(農耕地)での空中塩分量はmg/m³/hr当たりで、マツ林前の空中塩分量を100%(277.4mg)とすると18.7%(51.7mg)～4.7%(13.1mg)に減少した。*調査時は海よりの風、風速4m/S程度。

(2)海岸マツ林の有る場所(北横手地区)と無い場所(いわき市下神谷夏井川河口)を比べてみると、海から内陸へ200m～500m入った場所では、海浜の空中塩分量を100%(277.4mg～165.8mg)とすると、マツ林の無い箇所では37%(61.2mg)～20%(34.4mg)、マツ林のある箇所では上記(1)のとおりと減少した。この差はマツ林の塩分捕捉効果と考えられる。

4 その他の資料等

なし

